

日帰り麻酔の安全のための基準

主旨

医療技術の進歩により、従来入院を必要とした手術や検査が、日帰りで患者に行えるようになった。そのための日帰り麻酔は、術前・術後の管理を外来や在宅で行うことから、入院していれば容易に発見できる異常を見逃したり、処置が遅れる可能性がある。安全に日帰り麻酔を行うためには、より高度な技術と周術期の十分なケアを必要とし、以下のような基準を満たすべきと考える。

1.日帰り麻酔の選択にあたっては、

- 1) 事前に、麻酔科医による診察、術前検査の評価を行うこと。
- 2) 患者や家族へ日帰り麻酔の主旨とリスクについて十分説明し、了解を得ること。
- 3) 帰宅時の付き添いや自宅で介護できる人がいること。
- 4) 緊急事態が生じたときに速やかに受診できる範囲に居住していること。

2.看護要員、設備、および体制については、

- 1) 術前の指示、処置、バイタルサインの評価ができること。
- 2) 帰宅可能となるまでの看護と観察ができること。
- 3) 帰宅後の術後経過の確認方法と異常事態への対応が確立していること。
- 4) 入院できるベッドが確保されていること。

3.麻酔中の患者の安全を維持確保するために、全身麻酔、硬膜外麻酔、脊髄くも膜下麻酔に限らず、術中に鎮痛・鎮静薬を使用する際には、日本麻酔科学会の「安全な麻酔のためのモニター指針」を遵守すること。

4.帰宅にあたっては、①意識状態、②呼吸機能、③循環機能、④運動能力、⑤出血、⑥疼痛などについての基準を設け、麻酔科医が診察・評価を行うこと。

付記

日帰り麻酔には、日本麻酔科学会麻酔科専門医が関与することが望ましい。

1999年11月

日本麻酔科学会
日本臨床麻酔学会
日帰り麻酔研究会

2009年2月改訂

社団法人日本麻酔科学会
日本臨床麻酔学会